

ワイン製造販売

障害者とともに

障害のある子どもたちが放課後や休日に支援を受ける「放課後デイサービス」などを県内で運営する会社が、ワインの製造販売に挑戦する。学齢期を終えた障害者の就労を支えるとともに、「好きな仕事」を見つけてくるきっかけにしてもらおうという取り組みだ。

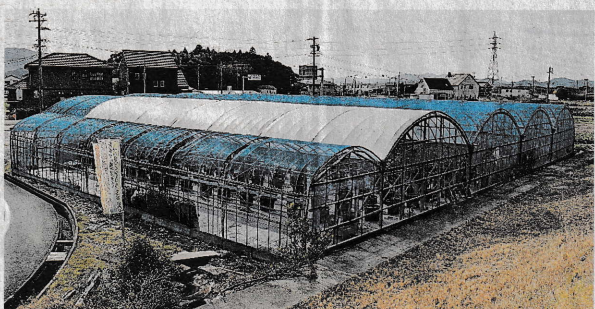
支援施設運営の会社



昨年10月に収穫を終えた鉢植えのブドウと岩崎直明さん。いずれも伊勢市御園町高向

2013年に設立された株式会社「ケアプロフェツシヨナル」は、伊勢市と明和町の計4カ所放課後「デイサービス」を、桑名市など6カ所高齢者向けリハビリ施設を運営する。社長の岩崎直明さん(41)は常々、特別支援学校などを卒業した障害者たちが「好きだ」と思えるような仕事先を見つけてくることの難しさを感じていた。

「個性や特技生かせる仕事あるはず」



ワイン用のブドウの試験栽培をしているハウス

る仕事を確立したい」。岩崎さんが思いついたのが、ブドウをつぶしたあとで醸造するワイン造りだった。知人を通じて、2018年に欧州原産のブドウ栽培に着手した。農業の経験がない岩崎さんは、施設の近くの耕作放棄地10アを借りて、手作りのハウスで栽培を始めた。

岩崎さんは21年度中にも、学齢期を終えた障害者向けの就労支援施設を立ち上げ、ブドウの栽培を本格化させる考えだ。将来的には作付面積を50アにまで広げ、醸造免許の取得も目指す。

ブドウをいちから育て、ワインを醸し、販売する。通信販売も手がける予定で、そのための環境整備も必要だ。ラベルのデザインや在庫管理も重要になってくる。様々な種類の仕事が派生してくることになり、岩崎さんは「障害のある人たちの個性や意思、特技が生かせる仕事があるはず。事業として何とか成功させたい」と意気込む。

同社の取り組みに共感してくる企業も現れた。化粧品などを製造する「御木本製薬」(伊勢市)は、土壌改良に使ってもらおうと、カルシウムが豊富なアコヤガイの貝殻や貝肉を提供してくれている。

早ければ3年後、ワイン製造販売を軌道に乗せようという岩崎さんは「障害のある人たちが、社会の中で生き生きできる仕事場になりたい」と話している。

(安田琢典)

中高一般11団体 東海大会出場へ

県アンサンブルコン

第53回県アンサンブルコンテスト(県吹奏楽連盟、朝日新聞社など主催)が17日、津市の県文化会館で開かれた。鈴鹿市立神戸小の金管七重奏、四日市市立南中の混成八重奏、皇学館高の木管五重奏、白子ウインドシンフォニカのサクソフォン三重奏が各部門で最優秀団体に選ばれ、朝日新聞社賞が贈られた。

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため無観客で行われたが、参加者は日頃の練習の成果を発揮し、息

新型コロナ

26人が感染

10歳未満〜80代の男女計26人が新型コロナウイルスに感染したと、県と四日市市が17日発表した。県内の感染者数は延べ1783人になった。また、県は二つのクラスター(感染者集団)の発生も発表した。県によると、鈴鹿市の介護施設「鈴鹿グリーンホー

今大会は、無観客とする

「参加できるだけでうれし